

学内における学術交流の推進につき提案

【ご意見・ご要望】(投稿日:2024年10月27日)

学生意見箱の制度を利用して、以下の通り提案いたします。

京都大学は総合大学として多くの学部・研究科を擁しており、御承知の通り多分野に亘り学術成果を生み出しております。しかしながら、それらの成果が学内で共有される機会が少なく、学内での学術交流にまだまだ改善の余地があるように感じます。今日では分野を跨いだ共同研究が世界的に活発化しており、そうした情勢に鑑みれば、京都大学の学内学術交流の現状はもったいないように見受けられます。

そこで、大学が主導して、学術交流の場を設けてはどうかと考えました。

具体的な一例として、月末金曜日などに百周年時計台のホールなどの施設を会場として、各研究科の持ち回りで教員または院生による研究概要報告会のような講演会を実施してはいかがかと考えました。ホール前の廊下をポスターセッション等の場に充てれば、若手研究者の研究発表の機会も増えて有益だと思います。

こうした機会は、学術成果の共有という面に留まらず、各研究が抱える課題等を共有することにより、研究科の垣根を超えた共同研究を生み出すきっかけとしても作用するかも知れません。すなわち異なる分野同士で知識や設備を提供し合うことで、有機的に新たな学術成果の創出が期待できるのではないのでしょうか。

本学は総合大学の中でも特に多様な分野の研究者が在籍する学府です。その強みを活かし、人の交流を促進することで、これまで埋もれていた潜在能力を掘り起こすことができるように感じました。

以上、御検討いただけますと、幸いに存じます。

【回答】(回答日:2024年11月7日)

(回答部署:学術研究展開センター)

本学でも、学生や研究者の皆さんが多様な分野で学術成果を発表し、交流を深めるための取り組みを積極的に行っています。その一環として、すでに「京大 100 人論文 (<https://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/project/kyoto-u-100-papers/>)」や「京都大学アカデミックデイ (<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>)」といった企画を実施しています。

「京大 100 人論文」は、京都大学らしい先端的な研究テーマや、これから研究になるかもしれない芽を 100 近く掲示する展示企画です。これにより多くの研究者が分野を越えた本音の意見交換を行い、対話・研鑽ができる機会となっています。また、「京都大学アカデミックデイ」では、研究者同士が直接交流できる場を提供しており、分野を超えたアイデアの共有やコラボレーションの可能性を広げています。これらの活動を通じて、本学では分野を超えた相互理解と新たな発見が生まれることを期待してい

ます。

一方で、これらの企画は年に一、二回しか開催できていません。また、各研究科で同様の趣旨の取組を行っている場合でも、学内で十分周知されていない場合もあります。いただきましたご提案をもとに学术交流の場の拡大について、どのような形であれば実現が可能か検討して参ります。

貴重なご提案をありがとうございます。今後も、さらなる学术交流の充実を目指し、学生や研究者の皆さんが自由に意見を交換し、成長できる場を提供していきたいと考えています。